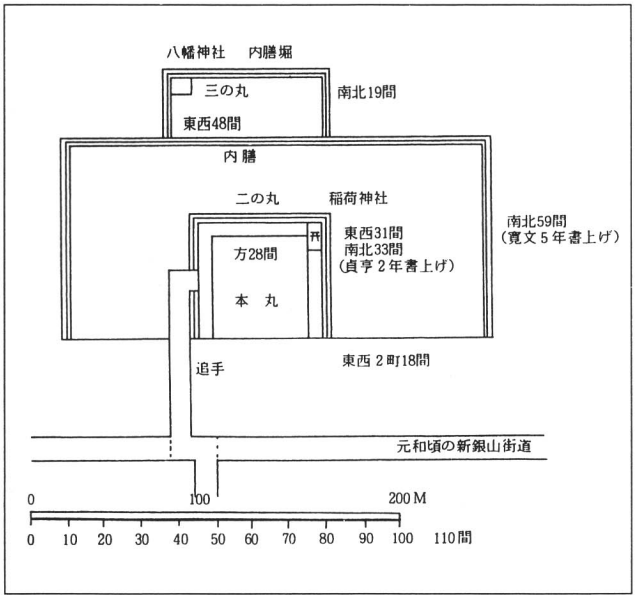
二　下小松（小松）に館構築

延文（一三五六～一三六〇）の頃、葦名の臣で五千石ともいわれる小松彈正包家により館が構築されたといわれている。その後平田総右衛門という者が住居し、天正（一五七三～一五九一）の頃、五千石の松本源兵衛が住んだといわれている。なお、新編会津風土記には、当時この村に館が三つあったと書かれている。前記小松館のほか、一つは村西にあって、土居堀の形が遺っており、いつ頃か佐々木鴨之助という者が住んだが、現在は基盤整備事業により田圃になっている。残る一つは北東の方一町三十間にあって、土塁の形が遺っているが何人が住んだか詳らかでない。現在小松原運動場となっている。下図は小松館の復元図である。

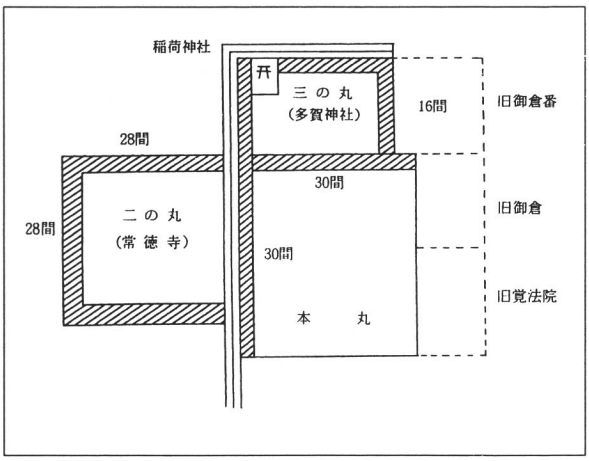


下荒井古城跡復元図

三　各地に館の構築

新編会津風土記には、現在の北会津村内に十三の城や館の書き上げがある。そのうち五千石級の領主として下荒井城と下小松の館や現在は会津本郷町になっている上荒井村に葦名の臣で荒井万五郎が住んだという城にふさわしい館の三つが中心となって、葦名氏を護る核となり、その下に館を構えた小さな豪族がいて村々を統治していたのではないかと思われる。その館は左記のとおりである。

1　中荒井村館
2　石原村館
3　田村山村館
4　館村館



小松館跡復元図